



## 在来種よりも収穫期が約1ヶ月早いエゴマ新品種を開発！

－新品種で中山間地域の活性化を目指します－

### 開発の背景・ニーズ

北設楽郡設楽町を中心に、中山間地域の特産物としてエゴマが栽培されています。エゴマは五平餅のタレや、エゴマ油などに加工・販売され、地域振興に寄与しています。地域で栽培されるエゴマの在来種「名倉」は、収穫量が多く、食味が良いことが特徴ですが、収穫期が集中し、早霜の被害で収穫量が減少することから、安定生産と経営面積の拡大を図る上で課題となっていました。

そこで、山間農業研究所園芸研究室ではエゴマの安定生産を図るため、在来種よりも早く収穫できるエゴマ新品種の開発に取り組みました。

### 成果の内容

山間農業研究所園芸研究室では、2009年から新品種の開発を開始し、在来種を交配した系統から、「名倉」よりも収穫時期が早く、収穫作業が容易な系統を選抜してきました。2021年から2022年までは、県内エゴマ産地での現地栽培試験や、五平餅のタレに加工した際の食味試験等を実施し、約14年間かけて新品種「No.7」を開発しました。

「No.7」は在来種「名倉」に比べて収穫時期が早い（表1）ことから、早霜の被害回避、収穫時期分散による栽培面積拡大が可能になります。また、収量は同等（表2）ですが、草丈が低く茎が細いことから収穫もしやすい特徴を持っています（表1）。

表1 開花期、収穫期、収穫時の草丈及び茎径(2022年)

品種・系統	設楽町西納庫(標高：630m)				
	開花始め	開花終わり	収穫期	草丈(cm)	茎径(mm)
No.7	8月12日	8月30日	9月24日	103	9.1
名倉	9月23日	10月12日	10月25日	152	15.7

定植日（は種日）7月8日（6月15日）



新品種「No.7」の花と子実

表2 栽植密度が収量に及ぼす影響(2021年)

品種・系統	植穴あたりの株数(株)	収量(kg/10a)
No.7	3	84.9
名倉	2	83.4

調査場所：設楽町名倉(標高690m)



「No.7」は、黄変し収穫期。  
「名倉」は約1か月後に収穫期。  
(2023年9月19日撮影)

### 愛知県農業への貢献

本品種を導入により、早霜被害の回避、収穫作業の分散が実現できます。また、生産量が安定することで新たな需要にも応えることができ、中山間地の活性化に資します。